

知事記者会見（平成24年7月17日）

●知事発表

- （1）中国・天津市への訪問について
- （2）あきた結婚支援センターについて

●幹事社質問

- （1）中通再開発地区「エリアなかいち」オープンにあたっての所感について
- （2）シェールオイルの開発への県の関わりについて

●その他

- （1）トヨタ自動車東日本株式会社の発足について
- （2）五十嵐俊幸選手のボクシング WBC 世界王者奪取について

時間：13：00～13：36

場所：プレゼン室

（幹事社）

よろしく申し上げます。

本日、まず知事の方から二つ発表事項あるということなので、そちらからお願いいたします。

（知事）

まず2点発表事項ありますけども、その前のトピックスとして、昨日、ボクシングのWBC世界王者決定戦で、本県出身の五十嵐俊幸選手がチャンピオンに輝いたということがあります。大変嬉しいニュースでありまして、五十嵐選手の世界王者獲得、心からお祝いを申し上げたいと存じます。

確かですね、今からもう30数年前、工藤政志選手がこのプロのボクシングではチャンピオンに輝いたことがございますけども、秋田県では世界チャンピオン、確か2人目だと思います。ちょうどスポーツ立県宣言等々、スポーツ振興ということで我々も頑張っているその時期でありますので、本当に良かったなと思います。28歳というお歳であります。この後もひとつ健康に気を付けて、大いにこのチャンピオンの座をですね守り続けて欲しいなあという気がいたします。改めて五十嵐選手にはお祝いを申し上げます。

今日、私の方から2点ございます。

1点目は、この24日から27日にかけて中国の天津市を訪問することにしており

ます。

一昨年、天津でのダボス会議に招かれまして天津にまいった経験がございます。秋田と天津は、実は天津にエアバス社の組み立て工場があって、それに秋田の航空機産業のコンソーシアムが、そこと様々な形で連携を持ちたいということで、それがきっかけで天津との間柄がある程度こう接触したわけでありましたが、これまで天津市政府といろいろやり取りをしまして、今回私が直接訪問いたしまして友好交流に関する合意書（注：1）を締結したいと思っております。

中国におきます天津市の位置付けでありますけども、温家宝首相の出身地でございまして、いわゆる北京の隣の市で、港湾、港の都市、そして第二次大戦前の世界各国の様々ないわゆる租界というんですね、租界、フランス租界だとかイタリア租界だとかというそういう街並みがそっくり残ってまして、観光都市であります。

また、釜山を通じて秋田とのコンテナのいわゆる航路の一環にもなるわけであります。大きな港も持っていて、これから観光クルーズの中国でのそういう役割も、貨物以外にもその役割を担うと。もう一つは、中国の観光都市という形、あるいは産業都市として、この後中国政府が最も、上海が大体投資終わりましたので、その後の中国最大の投資のエリアというそういう位置付けになろうかと思えます。

人口が約1千300万ということで、中国では最も富裕層が、いわゆる所得の高い地域でありまして、我々も様々な形でこの友好交流に関する合意書（注：1）を締結して、経済分野を中心に交流を進めたいということで中国の天津の市長とも2回目でありますけども会談、また、情報交換をすることにいたしております。合意書（注：1）の締結以降、秋田県と天津市の企業のマッチング支援、あるいは県内事業者の同市における商談会への参加支援ということで、県内産品の売り込みなども進めていきたいと思っております。

また、観光分野では、本年2月に天津市の旅行エージェントやメディアの方々に秋田にお越しをいただいております。秋田の冬まつり等を視察していただいているほか、天津市においても秋田県観光セミナーを開催しております。この4月には、天津市政府職員約30名が秋田に2泊の予定で研修に来ております。秋田の様々な行政視察、あるいは観光地の視察なども行ってございまして、もう既に天津市とは具体的に様々な取り組みを進めておりますが、この後様々な形でさらに拡大をします。

また、港の活用もこの後も考えられる非常に近い位置にありますので、今回の合意書（注：1）を締結し、そういう方向にもっていければということで訪問してきます。

また、今年は日中国交正常化40周年でございまして、そういう意味合いもあってこういう取り組みをするということでございます。

（注：1）後で幹事社の質問を受け「友好協定締結に向けての協議書」に訂正

もう一つはですね、結婚支援センターについてであります。皆様方のところに今、資料を配付させていただいておりますけども、あきた結婚支援センター、昨年4月のリニューアルオープン以来、会員数も順調に増えてございまして、それに伴い会員同士による結婚、あるいはセンターのアドバイス等をきっかけに結婚が決まった会員、あるいはセンターが情報発信する出会いイベントで知り合い結婚に結び付いた方々などからも、ご成婚の報告が数多く寄せられております。この中で会員同士によるカップルからも報告がございまし

て、その結果、成婚報告者数、あくまでも報告のあった方ではありますが、100人を超えたところでもあります。

この100人目と101人目、当然その会員同士だと二人ですので、100人目と101人目のお二人は、この結婚支援センターのマッチング、お見合いでめぐり会いまして、約1年交際期間を経て7月7日に入籍をしております。そういうことで100人を超えたということで、少しずつではありますが我々の取り組みについても成果が出てきているのかなと思っております。

ちなみに、この数字を見ますと、23年は全体でこのマッチング会員同士と会員及び会員以外、あるいはイベント参加者で全部で68の方が結婚に至ったわけではありますが、24年度は4・5・6の3カ月で31人ということで、ペースが上がってきております。そういうことで、我々としては今後とも地道な取り組みではありますけれども、これを続けていくことによりまして結婚の数が増えるのではないかと。

また、会員数も徐々にこう増えております。会員数が増えるということは、結婚を希望している人がそれだけいるということでありますので、希望を持ってこれからもこの取り組みを進めていきたいと思っております。

それからもう一つは、このお二人については私が24日からいまして、別途投げ込みを予定しておりますが、25日の日に県庁にでも来ていただいて、副知事から記念品でも、ちょうど100人目ですので差し上げようかなと思っております。

なお、これの詳細については、後でまた、近くなったら別途投げ込みをする予定であります。

以上であります。

(幹事社)

知事の発表事項に関しまして幹事社から1点だけ確認させてください。

天津市との訪問に関してですが、今回知事と天津市長が締結されるのは、いただいた資料ですと「友好協定締結に向けた協議書」となっております。合意書でなく協議書ということよろしいでしょうか。

(知 事)

ああそうです。あの、そうです。すいません、友好協定締結に向けての協議書であります。前にやったのが合意書であります。すいません、間違いました。ですから、前はその、これから友好交流をしますというだけでしたが、これは、今回は将来に友好協定結びます。その中の、これから具体的にですね、あのかつて沿海地方行政府とやったときは、例えば観光だとか文化交流だとか、例えばシベリア鉄道の活用だとかという細かい項目が載っていましたが、いずれ今後の協定というのは、単に姉妹都市というような感じじゃなくて、かなり具体的な形にして、それが事業に結び付くような形でないと困りますので、そういうことで訂正してお詫びします。はい。

(幹事社)

友好協定の締結に向けては、どのぐらいのスケジュール感を描いていらっしゃるのか、

あるいは知事として盛り込みたい内容がどのようなことになっているのか。

(知 事)

あのですね、いずれ今回この友好協定締結に向けて協議書に調印いたしますけども、あちらのトップとですね、どういうことを中心にこれから進めるのかというそういう話もして、その結果に基づいて、友好協定締結についてもなるべく早い機会にしたいと思いますが、やはりこの友好協定となりますと、ちょっと日本とは異なりまして、いわゆるあちらの国家レベルの承認というか、内々のそういう手続きも入ります。そういうことで、当然その今回の帰りに中日友好協会にもこの件を報告しながら、この後この友好協定の締結に向けてスムーズに運ぶようにお願いもします。

内容はですね、今までの例からしますと、やはり観光の交流、先程お話ししましたとおり天津の2月にも旅行エージェントがまいっております。御承知のとおり秋田の受け入れというのはですね、ちょっとほかと違って、観光地にどだっとした、何ていうかグレードの高いホテルがですね、そう多人数（を収容できる）ところがないんですよ。どちらかという、田沢、角館、八幡平にしても、どちらかという、レベルが高いけれども小さな旅館というか温泉施設、そういうところ、意外とコストの高い、割と値段の高いところですけども、そういうところだとすると富裕層を中心とした観光客がかなり見込まれるというそういう天津の旅行エージェントの話もございました。

そういう形で秋田への観光客の誘致、そしてまた天津自身もですね中国観光の拠点にしたいということで、日本人が遊びに行くとなると非常に、今までの中国というのはどちらかという、あの兵馬俑だとかその中国の歴史中心でしたけども、天津だとショッピング、いわゆるそれこそ私も一昨年行ったときイタリー租界を何となく、それこそイタリーのですね街の中にいるような気分です。全く当時の昔のイタリーの建物そっくりそのまま改造して、そこにブティックだとかレストランが入っている、そういうヨーロッパのものがたくさんございまして、ある程度短期間に、短時間にいろいろ遊べるというそういうこともございます。そういうことの観光交流。

あとはやはり今後ですね、様々な形での、先程言った航空機のエアバスの大きな工場がございまして、秋田の航空機産業のコンソーシアムの皆さんは何らかの形でエアバスと接点を持つとすると、まあボーイングとは接点持っていますけども、エアバスと接点を持つとするとどうしても中国の天津工場になるということで、もうその方々はそこもそういう形でもう情報交換やっております。

あとですね、これからやはり天津市政府の方から若干その、まあ意向があるのはですね、高齢者福祉の分（野）ですね。介護施設等その、あちらは介護保険の制度ありませんけども、ある程度のその、中国のひとりっこ政策で大変なこれから高齢化社会を迎えます。そういう形での高齢者福祉についてのその何らかの、特に秋田はその高齢化県でありますので、そういう形での接点なんかもですね、あちらの方からのやり取りの中ではうかがえるということでありますので、やはり経済交流で単にこちらから物売るだけじゃなくて、あちらから観光で来ていただく、あるいはこちらから行く場合も非常に行きやすいんです。北京空港からすぐであります。新幹線で27分、北京空港から。そうしますと、羽田から北京へ行って、朝の便だと昼までに着きますので非常に行きやすい、あるいは仁川空港と、

天津空港と仁川空港結んでいますので、1時間半ぐらいです。仁川経由でもですね非常に近いところでありますので、天津といろいろな面で接点を持つということは、いずれにしても秋田のプラスになると。

あと、ちょっとこの高齢者福祉の方は、なかなかその制度上の問題もあってそう簡単にいきませんが、明らかにこういうものに対して国内の方もビジネス、そういうふうに向いていますので、我々も高齢者のビジネスのそのノウハウの提供、あるいはそれに伴う様々な形での交流というものも考えられるのかなという、そういうことであります。いずれ経済面が中心ということになると思います。

(幹事社)

この件につきまして各社から御質問ある方どうぞ。

では、幹事社質問の方に移らせていただきます。今日は2点お伺いします。

まず1点目ですが、21日に中通地区のあの「なかいち」がまずオープン記念を迎えますけれども、長年かかっているこの日を迎えるわけですが、知事の所見伺ってよろしいでしょうか。

(知事)

「エリアなかいち」暫定的に商業棟の方のオープンがされました。私も中一巡してぐるっと見せていただきました。

まず今のところ、やはりちょっと今までにないスーパーの感覚でもない、どちらかというところとデパートの感覚のお店の配列ということで賑わっているようであります。同時に、ほとんど影響がないという、プラスマイナスないというところもございますけれども、総じて駅前地区も相乗的に若干プラスの影響があるかなという、そういう感触も得ております。

全体として16年間ああいう状況の中で、まずああいう再開発が完成をするということについては、私も市長時代からずっと関わっておりましたので、また、一秋田市民としても一番多く通るあそこが、いつも草が生えている状態からすると非常に嬉しく思っています。

いずれただ、今のところは当然新しい施設というのは御祝儀相場というものがございませぬので、問題は御祝儀期間が終えた後、いかに経常的に機能を発揮し続けるのかということがこれからの一つのポイントになりますので、それは地元秋田市、県、あるいは地元の地域の商店街の皆さん、そしてまた美術館、あるいは市のにぎわい交流館、こういう形のそれぞれのセクターが力を合わせて、今の世の中、東京のど真ん中でも単に施設を作っただけでは一過性に終わりますので、どうやって楽しい街にしていくのか、そしてそれぞれの機能がきちっと発揮できるようにするのかというそういう形で努力をしていくということによって初めてあれを作った意義が認められるということになると思います。これからが努力のしなきゃならない、これからむしろスタートになったという感じがいたしております。

(幹事社)

ありがとうございます。

もう一点ですが、シェールオイルのことなんですけれども、県内で試掘調査が開始されるということが発表されました。県としての関わり方、また、地下資源開発に関する知事の御所見をいただけますでしょうか。

(知 事)

シェールオイルそのものは今突然出てきたものではなくて、当然石油やガスが出るころにはそういうものが含浸した一つの地層があるわけでありまして。そういう地層から少しずつしみ出たものが溜まったところから油を採っていたわけですけども、それは掘り尽くしたということでありまして、その石油がかつて採れた周辺には含浸している地層があるということは、これは昔からわかっています。

ただ、技術的にそれを溜まりじゃなくて、スポンジの中にこう水が含まれているようなそういう状態ですので、今までの油田というのは、液体の溜まったところなんです、これ(地層)からその採るというのはなかなか難しい技術でありました。コストの面もということでありまして。それが最近の技術革新、あるいは全体にオイルの値段が上がってきたということで、一部その採算が合うのかなというそういう状況の中で今回試掘になったわけでありまして。

我々としては当然、かつて石油資源の県でありましたので、全体としてどのぐらい、これからどういうふうになっていくかは別にいたしまして、我々としてはやはり秋田のもう一つのその昔の資源でありますけども、新たなこういう形の資源が有効に採取できれば、雇用や地域経済には当然プラスになりますので、今のところ期待をいたしているところでありまして。

ただ、これは製造業で工場を作るのと違ってですね、当然試掘したからすぐ採掘になるというものじゃなくて、全体の埋蔵量だとかコストだとか非常に幅広い技術的考察と経営的な考察を経てやりますので、少しこれはそんな形にポンポンポンといくとは思っていません。ただ、少なくとも石油がかつて採れたところには、こういうシェールオイルが含まれた地層があるということは、これはわかっているわけでありまして、これが現実のものとなって、また秋田からオイルが産出するということを期待をいたしております。

(幹事社)

幹事社質問に関して、あるいはほかのことについてご質問のある社がありましたら順次お願いいたします。

(記 者)

12日のですねトヨタ東日本の発足式典に知事も御参加されましたけれども、あの豊田章男社長とですね同じテーブルにおられました、どのようなお話をされたのかという点と、なかなか岩手・宮城・福島と比べてですね自動車はかなり厳しい状況続いています、誘致の点でどういう取り組みしていかないといけないのかお考え教えていただければと思います。

(知 事)

あのパーティーの前に知事、東北6県の知事、ただ直接知事出たのは4県でありましたが、山形と青森は副知事さんでしたけども、いろいろトヨタの戦略についてお聞きして意見交換もしました。その後、パーティーでも豊田章男社長と私同じテーブルで、実は豊田章男社長というのは非常に経営者としてのみならずレーサーとしても車が大好き人間であります。いわゆるマニアックな方でありました。私も車が大好き人間で、トヨタの章男社長がまだ私と一回り違いますので、乗ったことのないトヨタ車に私はもうその乗ってましたと。そうしましたら大変興味示して、その車には私乗ったことがないだとか、その車は確か幼稚園ぐらいのときに乗せてもらっただけでという、そういう古い車についてですね私の方が知ってますので、自分で乗っていたもんですから、そういうことで非常にその、私もどちらかというマニアックなカーキチでありますので、大変楽しく話させていただきました。

トヨタの基本的な戦略は、国内生産の一定生産を、これからもまずは円高等があっても維持していくと。それで、維持するにあたってトヨタは三つの基地を持つと。いわゆるその名古屋、いや、あの方々は三河と言いますね、三河を中心にと、いわゆる名古屋です。あそこの、本社のあるあそこを中心とした一つのエリア、もう一つは20年前からもう進出している九州エリア、これに東北エリアの三つ、これをこれからも維持していくと。

最終的には部品調達も全て、特殊なものを除いては域内調達と。三河は三河周辺、九州は九州内、東北は東北内だと、関東も一部含めてですけども、そういう形の戦略をとると。よって、これから部品調達分野については、地元発注は明らかに増えていくと、そしてそうせざるを得ないということでありました。

そういう中でトヨタとして望むのは、どちらかという、なかなかトヨタとして地元調達がすぐできない、あるいは非常にメインの部品でトヨタの直系の子会社でなければなかなかできない部分は、三河からこちらの方に、トヨタの周辺ですね、デンソーだとかああいうところは移設を、こちらの工場を作ると、これはほぼ終わり。むしろこれからは地元企業の、それぞれの地域にある地元企業への部品発注、あるいはその様々な部品というかその周辺ですね協力工場として参加をしていただきたい、いきたいということで、現実の問題として、トヨタ関連企業がその後大きく地方展開するということはないと。むしろそうなるトヨタ全体での、要するに地元には波及はないという概念ですね、そういう形は。トヨタの関係の子会社連れてくると、それは地元には波及ないという、雇用だけは増えるという、むしろ地元の企業が、やはりいろいろな企業から部品を調達した方が、その部分で地元の根っこのあるところがその雇用も増えるし、売り上げが地元経済への波及になるという、そういう考えなようでございます。現に秋田でも15社、16社ですか、もうトヨタとそういう関係を持っていますけれども、これをいかにやはり増やすかということと、もう一つは、さらに別の分野、いわゆる様々なもう車の部品というのは数多いわけですから、それに対して参入するために我々も頑張るので、県としても技術支援、あるいはその設備投資への支援についてやってもらいたいという、その点でこれからトヨタとは様々な形で情報交換をしたいというそういう話でした。

そういう中で、やはり九州の例を言われました。九州がですね地元調達が今さらに80%ぐらいまで上げたいと、今60%台みたいですけども、20年やはりかかったと言いますね。やはりトヨタに部品を納めるためのその下地というのは、相当その、単に試作品を

出ただけじゃないんですね。もう全くコストの問題もですね、同じ品質を作るものでもコストはかけない方法というのはいろんな方法あるわけでありますので、そういうことも含めてやってもらわなきゃならないということであります。単純に言いますとね、皆さん方、意外とわからないと思うんですけども、トヨタの工場行きますとね意外と面白いですよ。物を移動するのにね機械は使わない、電気は使わない。例えば、おもりは何だと思えますか。何かをぶら下げるおもり、こうバランスとる。ペットボトル、ペットボトルに水入れてるんですよ。その水だとね、グラム単位で落とすと。そうすると、こちらの部品とのバランスでね、トンと落とすとパタンと1つネジ落ちてくる、ザル。コストゼロです。こういうことなんですよ。

ですから、トヨタと付き合うというのはね、最新の機械入れてコンピューター化するというだけでもないですよ。そういう形での非常にそのコストのですね全く我々が違うコスト低減の方法というのはですね、やってるんですね。おもりは確かに、鉄のおもりだとね1グラム単位でできないと。それものすごい値段高いでしょう。ペットボトル、タダだっていうんですよ。水も水道だからタダに等しいと。あっちこっちこうやってぶら下がってるんですよ、ペットボトルが。それでね、こうバランスとってるんですよ。違う部品作るとき、こっち10グラム、水10シーシー入れればピタッと、こういうことなんですよ。ですから、非常にその、そういう概念を持ってもらうために付き合いをしたいということでした。

ただ、全体としてトヨタが東北で小型車の基地にすると。かつハイブリッド、プラグインハイブリッドという最新のものをこちらで作るということになると、今までと違って機械ばかりじゃなくて電気・電子関係での付き合いも相当広くなるということで協力していただきたいということで、我々も、特にハイブリッド、あるいはEVも含めてコンソーシアム作っていますので、何とかですね、これから1社でも2社でも増えたと。今やっているところが付き合えるということで、もっと量を増やしてもらおうという、そういう中で秋田に恒常的にトヨタと付き合える企業を増やしていくということが一つであります。

もう一つは、これもトヨタさんとも、ちょっと質問にないんですけどね、実はトヨタさんがこういうお話をしました。

秋田港から韓国社の部品は相当出ています。ヒュンダイへ秋田港から物がかなり出ていると。もうトヨタさん掘んでいます。ということは、秋田港からヒュンダイへ行ってるということは、東北では相当、まあ秋田港から出る貨物はね、大概東北ですので、東北でヒュンダイとの付き合いがある企業は相当あるということです。ということは、もっともっと掘り下げていくと車関係にはもっともっとその付き合える企業が多いんじゃないかと。

それと20年かからないという言い方してました。というのは、九州はね全く未開の未知の世界だったそうです。例えば関東自動車というのは、関東ですね、横浜なんですよ。横須賀だったかな、もともと。ですから、東北と東京は近いということで、やはり技術の中核は東京にありますので、やはり東京に近いということだけで、まあどちらかというと九州20年かかったけれども、まあ東北の場合はそれだけかからないだろうと。また、それほどかけているとトヨタも困るということでした。

そういうことで、秋田の方は電子関係が中心ですけども、それ以外も含めて我々もですねこれから、確かにそのトヨタの子会社の企業誘致というのはなかなか現実のものとして

考えられないと思います。ただ、地元発注は、やはり相当増えるというそういう方向でないかなと思います。ただ、関連してこういうのはですね、既にちょっと若干ありますけども、トヨタに納めている現企業が、そのためにあちらの方の工場をむしろ小さくして、こっちに持ってくるという、この例は出てきています。明らかにですね、そのための工場を作っているところがあるんですよ。ですから、これは今ある企業が、首都圏にある企業が、そのために、あちらの三河に出していた部分をこっちへ移すために、こっちにもってくるというのはあります。これは我々も目を皿のようにしてこれを引っ張っているという状況が今であります。

あと最終的には朝日新聞さん、この間いいこと書いてましたね。あの1面に何だっけ、シベリア鉄道の関係ね。いずれにしてもウラジオに組み立て工場作りましたので、このウラジオの組み立て工場の状況が今後どうなるかということが日本海側の港湾の活用にもつながるといふ言い方をされてました。

以上であります。

(幹事社)

ほかに質問のある社はありますでしょうか。

(記者)

シェールオイルの関係なんですけれども、県として例えば支援とかそのような関わり方はあり得ますでしょうか。

(知事)

JOGMECがやっていますので、今のところですねある程度国の機関が関わっているということで、今のところ直接試掘に対して県が直接的に関わるということは想定していませんけれども、ただこれがですね、かなり幅が大きくなって実際試掘が本格的になるとすると、その活用だとか、今度はその処理の工場だとか、それを使うという幅広いやはりエネルギー産業ですので、そういう形で我々としては県がバックアップすることによって地元の経済・雇用にプラスになるとすると、また別途いろんな支援策を考えたい。ただ、まだ本当に出るか出ないか、採算に合うかどうかまだわからない状況ですので、今は成功していただきたいなという期待を持って見守りたいと思います。

(記者)

冒頭のボクシングの話題なんですけれども、五十嵐さんの快挙に対して県として何かこう対応とか考えているんでしょうか。

(知事)

今ですね、その話ですけども、世界チャンピオンですからね、何かやはりできないのかなということで今ちょっと調べています。この種のものはいろいろ前例だとか他県の件でもあったり、ただいずれ、もし何らかの形で機会にね、こうビッグなタイトルですので、県としてそのお祝いの意を示したいなと思って今検討中であります。

(記者)

ありがとうございます。

(幹事社)

知事の今後の御予定もありますが、あと一名ございましたらお願いします。ございませんか。

どうもありがとうございました。